

江原一雄

えはら かずお

命と暮らし、平和を守る、
次期市議選挙にのぞむ
3つの約束

- ① コロナ禍のなか、命・暮らしを守る市政へ市民の声を届け、実現に全力でとりくみます。
- ② 不公正を許さず、品位ある市政と市議会をつくります。
- ③ 憲法を守り、くらしに生かし、平和を守るため力を尽くします。



日本共産党武雄市議団
ホームページ

日本共産党

武雄市民報

2022年2月号外 日本共産党武雄市委員会

日本共産党は武雄市議選の予定候補と見解を發表しました

連絡先 武雄市山内町大野 6772 電話 0954-45-5192 携帯 090-2084-6402

江原一雄のヒストリーと議員活動の歩み

みなさんの願い実現に全力で頑張ってきました

戦死した

叔父の写真

父30才母41才の長男として生まれました。小学生の頃から、家庭の家族の調査表を提出させられていましたから、私の母がどうして、こんなに年の差があるのか不思議に感じて育ちました。

我が家の床の間の上に遺影があります。地元や長崎で中学校の教員をしていた兄がいました。兄とは18才も違うから、計算すると、どうしても父と兄の年の差が理解できませんでした。しかし、少し学年が進むと、ある時、遺影の意味がわかりました、なんと、戦死した叔父で、父の兄であることがわかりました。父が亡くなって、父の手持ちの整理をしていると、本の中から中国雲南省の騰越というところの激戦で全滅。叔母からの聞いた話では、獣医であったため出征兵士として召集令状4度目のことでした。

た。1944年（昭和19年）9月14日のことです。遺影は叔父の写真でした。

戦争がなくて叔父さんが戦死しなければ私は、この世に生まれていないのだと青春時代の進路について悩む中で考えさせられていました。

東京に行こう

高校生活は軟式テニスに夢中になって英語はダメでしたが、社会科だけは、頭に入りました。卒業が近くなるころ、「東京にいこう」就職担当の先生にお願いしに行きました。1968年（昭和43年）2月末卒業式が終わるとすぐ佐世保駅から集団就職列車で東京駅に着くと、田舎者で目丸くし気分はこれからやれるか心配になりました。でも、上の兄が東京に出て化学関係の会社で夜間の大学を卒業して頑張っているの、この時、自分も初めて勉強しなければと考えることができたのです。就職先はメッキ工場の会社でした。初めて世の中の風というものに触れた思いでした。

3ヶ月経ったある日上司から、「残業してくれ」との要請に私は大学に行きたいと思っていたので会社を辞めました。新聞配達して大学に行っていた山内町の同級生が声をかけてくれた新聞販売所に入りました。

新聞配達して

大学に

東京の足立区での新聞配達は、朝刊、夕刊、集金、拡張、チラシの折り込み作業とめまぐるしく1日があつという間です。でも、若さそのものでした。進路は、第1次産業農業こそ大事にしなければと東京農大を希望し合格の通知でした。すると、通学には遠いので、販売所を変わりました。目黒区です。

です。そのことを知っているのは私ひとりです。

3千円アップした

販売所の皆に「おかし」と声をかけ、有楽町の本社に皆で要請に行きました。すると、なんと3千円アップしたので

す。この時の体験は、その後の私にとって大きなことでした。ところが、販売所の所長家族は、気分は良くなかったのでしょう、私は、なんとなく居づらくなって世田谷の販売所に移動しました。また振り出しです。新聞配達のコース覚えるのに一苦労です。

20才の人生の

大転機

今思うと、その年の10・21国際反戦デーだったの、先輩と同級生に誘われて、新宿の広い道路を知らぬもの同士が手をつなぎフランスデモに参加し連帯することの感動を受けたこと

となどがひとりになると、前居た販売所のこと、思い出されて、同じ部屋の先輩が読んでいた「しんぶん赤旗」は自分とは関係ないと思っていた。しかし、部屋に在った「民青新聞」は若者の声を書かれていたのを思い出して、読みたくなつて民青事務所を訪問して読み初めました。しばらくすると、クラスメイトが来て、「民青同盟にはいらんね」と誘われたので、「いいよ」と即答です。あつという間に世界が広がりました。1969年11月です。20才になった時です。

そして、1970年（昭和45年）は、日本社会は、70年安保といわれる時代の変化を記す年でした。数年前からいわゆる大学紛争が荒れ狂っていました。東大安田講堂事件、新宿騒乱などの集団的暴力行動がテレビから流れていましたが、「あれは、学生運動ではない」と考えていました。

大学1年の終わりが、私のクラスでも学生自治会の代表選びがあり、その後自治会活動を手伝い始めました。3月末、1970年代の政治的動向を占う「京都府知事選挙のピラ卷きに参加しないか」と声がかかって、「いくよ」と即答です。

そして

日本共産党に

その時、もつと世の中のこと、日本社会の仕組みを知りたいと思って「日本共産党に入党しました」。私は、4年間の学生生活を通して学んだのは、学生の本分は「学問研究と社会に貢献すること」でした。

田舎に帰る

田舎に帰ることは兄との約束でもありましたが、社会の役に立つことをしようと決意し、山内町に帰りました。

そのころ市長選挙に党候補が出馬で、手伝う事になり党の専従者になり

ました。ところが大変です。父が血相かえて、叔母、兄弟姉妹を召集して「やめさせようと権幕です」。時間が経って長兄が「一雄がすると決めたのなら、途中でやめるな、」との一言で親族会議は終了しました。そして、29才の時、1979年（昭和54年）4月、山内町議会議員選挙に立候補することになりました。

父から「百票もはいらん」との予想を超えて189票もいただき、定数16名に7名落ちの22番で落選でしたが、気分は晴れ晴れでした。さらに、4年後挑戦して280票で初当選しました。

当時の山内町議会は、木造建築で雨が降ると会話が聞き取れなくなる様な議場でした。私は、控室が煙草の煙がひどくて、議場で食事です。その頃は、議長、町長とは差し向いで食事しながら色々話してもらいました。議長さんから「江原

さん、黒髪山に登ってみらんね、水はどっちに流れようね」と。当時有田の町長さんが大有田市構想を進めていたからこの様な話ができました。当然合併話はそれで終わります。町長さんからは「今、夫婦岩の下に広場をつくる計画をしているよ」と、

その後、私は、広場の名前が」と提案し観光協

会総会で「いこいの広場」と多数で決定されました。それが今、キャンプ人気で利用者が多くなりました。今はいない2人は喜んでおられると偲ぶ思いです。

23年間の町議時代

23年間の町議時代は、山内町民の水がめ、



黒髪山乳待坊公園「いこいの広場」

ダム問題では、H議員から「江原さんダム建設に反対してくれんね」と相談されました。私は「何でも反対ではないですよ」「地権者の皆さんは先祖伝来の土地を提供するわけだから、もし地権者のご理解が得られるなら」と、その時H議員は「そうね」と言われたのを今も忘れることができ

ません。水道料金、バイパス問題、農業集落排水事業と、そして、百条委員会立ち上げと、合併前には、固定資産税率を高い武雄市にすることには大反対などを取り組んできました。「良いことは皆ですすめる、おかしいことはおかしいと声をあげて取り組む」この信念を学ぶことができました。

平成の大合併 市議として16年

そして、2006年（平成8年）平成の大合併です。3百票から千票です。とても厳しいと選挙に臨

みました。結果は6位で新武雄市議会に送り出されていたきました。早速、「県下一高い1・55%の固定資産税率は標準の1・4%にすべきだ」と表にして質問しました。結果現在1・48%に下げられました。しかし、標準税率ではありません。標準税率にするべきです。

この間、「地域間競争に打ち勝つ武雄市をつくっていく」と豪語した元市長に、私は「地域間競争はあるが、打ち勝つとはおかしい、勝負の世界のことで自治体にはふさわしくない、撤回すべきだ」と反論してきました。合併して16年経ちました。暮らし優先で、少人数学級、就学援助、生活保護、国保保険料問題、市民病院問題、図書館問題など、市民の願い実現に奮闘してまいりました。



解決すべき 2つの大きな問題

今、武雄市政にとって解決すべき2つの大きな問題です。

水害

相次ぐ水害に被災者と共に

2019年、2021年と相次ぐ水害による六角川流域の方々の水害は、気候変動の影響があるでしょうが、政治の役割が求められています。

議会の一般質問で、2年前と

同じ地域で被害発生、被災者の悲痛な声に応える抜本的な治水対策を求めて、六角川一本に頼らない別の道を、「有明海へ直接ポンプで排水を」求めました。市長は「これまでの六角川の対策は本線（本川）の対策、いわば『一本足打法』だったと。今の気候変動に対応できない。当然、本線の対策は必要だが、それだけではなくて、3市3町・県が広域として流域治水を合わせて進めて、この気候変動に対応しないと、床上ゼロにもっていけない」と答弁しました。



2021年（令和3年）と2019年（令和元年）の豪雨災害のため日本共産党からの義援金を武雄市に届けました。

「また同じような水害に遭うのでは」との被災者の声に応えるため力を合わせて、市政に国・県に声を届け頑張っていきます。

ふるさと納税

不正を許さず

現市長のもとで、ふるさと納税の根幹をゆるがす大問題が発覚し、市議11名の提案で市議会に「ふるさと納税委託業務に関する調査特別委員会」が賛成15名、反対3名の賛成多数で可決されました。現在、司法に「告発状」が2つ提出されています。ふるさと納税問題は、市政の今の姿を示しています。不正を許さず、不正をただして品位ある武雄市をつくらなければなりません。



議員活動39年の政治信念

議員活動の根源は、戦死した叔父の写真です。憲法前文には、「政府の行為によって戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言しこの憲法を確定する」とあります。日本国民310万人、アジア諸国民2千万人の惨禍をもたらした、戦争は2度としないという国民の願いが「日本国憲法」に書き込まれています。現憲法の、主権在民、基本的人権の尊重、恒久平和、9条を守らなければなりません。いま国民が求めているのは、改憲ではなく、「憲法を守り、憲法をくらしに生かす政治の実現」こそ、優先しなければならぬと私は痛感しています。

私は、日本共産党に縁があつて入党して52年になりました。29才で初立候補するときも同級生から「共産党」じゃなかったらとの声は、今も消えませんが。日本共産党が間違っていたらすぐやめるけど、間違っていると思っていないから党員でがんばりたい」と言いながらやってきました。

「良いことは皆ですすめる、おかしいことはおかしいと声をあげて取り組む」この信念をこれからも、市政に市議会に届けてゆきます。